

訪日外国人旅行者によるレンタカー 利用実態調査

森野 由愛¹, 松原 明日香²

¹近畿地方整備局 企画部 広域計画課 (〒540-8586 大阪府大阪市中央区大手前1-5-44)

²近畿地方整備局 淀川河川事務所 沿川整備課 (〒573-1191 大阪府枚方市新町2丁目2-10)

近年、訪日外国人旅行者は増加し、それに伴い、訪日外国人によるレンタカーの利用も増加している。訪日外国人のレンタカー利用に関する調査はあるが、レンタカーによる観光行動を詳細に把握した調査は少なく、レンタカー利用の利便性・快適性を今まで以上に高めるために、レンタカー利用の実態と課題を把握し、事故防止対策や利用環境の向上を図ることが必要となっている。

本研究は、関西国際空港でレンタカーを借りた訪日外国人旅行者を対象に、ヒアリング調査とGPSを用いた観光行動調査を実施することで、訪日外国人旅行者のレンタカー利用の実態と課題を把握し、今後の訪日外国人旅行者の受入環境整備について考察するものである。

キーワード 観光、道路利用、地域活性化

1. はじめに

2013年、政府は観光立国の実現にむけて観光立国推進閣僚会議を立ち上げ、政府一丸、官民一体となって観光推進に取り組んできた。その結果、訪日外国人旅行者数は2016年10月に2千万人を突破し、2016年3月新たに策定された2020年までに4千万人、2030年までに6千万人という目標に向けて順調に増加している。

それに伴い、訪日外国人によるレンタカーの利用者数も2015年には70.5万人となり、2011年の17.9万人に比べ約4倍増となっている。

また、全国のレンタカーによる死傷事故はここ数年、年間6千件程度で推移しているが、外国人の運転による死傷事故は増加しており、2016年には81件の死傷事故が発生し、2011年の25件に比べ約3倍増となっている(図1)。

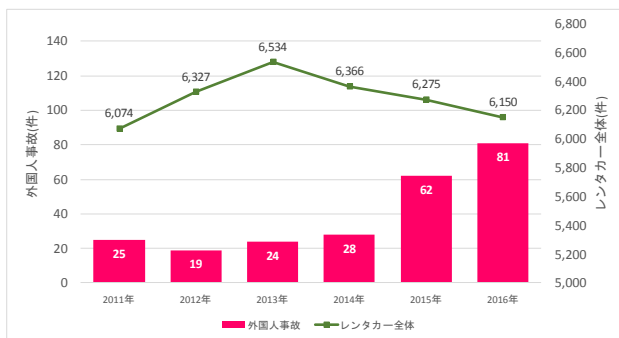


図1 レンタカーによる死傷事故件数の推移¹⁾

訪日外国人のレンタカー利用に関する調査としては、沖縄総合事務局による観光周遊行動および危険挙動に関する調査²⁾などがある。但し、関西では観光行動を詳細に把握した調査は少なく、レンタカー利用の利便性・快適性を今まで以上に高めるために、訪日外国人旅行者によるレンタカー利用の実態と課題を把握し、事故防止対策や利用環境の向上を図ることが必要となっている。

本研究は、関西国際空港でレンタカーを借りた訪日外国人旅行者を対象に、ヒアリング調査とGPSを用いた観光行動調査を実施することで、訪日外国人旅行者のレンタカー利用の実態と課題を把握し、今後の訪日外国人旅行者の受入環境整備について考察するものである。

2. 調査の概要

関西国際空港にレンタカーで発着した訪日外国人を対象に、ヒアリング調査とGPSを用いた観光行動調査を実施した。

(1) ヒアリング調査

ヒアリング調査の概要を表1に示す。関西国際空港に

表1 ヒアリング調査の実施概要

対象	関西国際空港でレンタカーを返却した訪日外国人観光客
調査方法	ヒアリング調査票(英語・中国語・韓国語)を用いたヒアリング(一部、WEBによるアンケート調査を含む)
実施場所	関西島内・ホテル日航関西空港の一階レンタカーカウンター前
実施期間	平成30年2月6日(火)～平成30年2月14日(水) 平成30年2月22日(木)～平成30年3月10日(土)

レンタカーを返却した訪日外国人旅行者を対象に、英語、中国語(繁体字)、ハングルの3言語の調査票を用いて、今回の旅行の概要、レンタカーを利用した理由、レンタカーの予約方法、利用道路を決めるために利用した情報、道の駅の利用状況、レンタカーを利用する上で困ったこと・感じたこと、レンタカーを利用する上で今後改善すれば良いと思うこと等の内容について調査員が聴き取りと書き取りを行う形式で実施した。

なお、2月中旬は中国の春節休みに当たる時期であり、レンタカー各社の繁忙期に当たるため調査を一時休止した。

(2) GPSを用いた観光行動調査

GPSを用いた観光行動調査の概要を表2に示す。関西国際空港でレンタカーを借り、関西国際空港に返却予定の訪日外国人旅行者に対し、調査員がレンタカーへの調査機器(GPS)搭載を依頼し、同意を得たグループを対象に実施した。

GPSは、約10秒間隔で緯度経度を取得するように設定し、調査員が車内の安全な場所に設置するようにした。

なお、ヒアリング調査と同様の理由により、2月中旬は調査を一時休止した。

3. 結果と考察

ヒアリング調査とGPSを用いた観光行動調査の調査件数(有効サンプル数)を表3に示す。香港・マカオが半数以上を占め、その他、台湾、韓国、中国の東アジアが多い。その理由として、香港・マカオは右ハンドル、左側通行であり、日本と共通する交通事情があるからではないかと推測する。また、比較的調査件数の少ない中国は、国際運転免許証を発給していないことや、右側通行であるためレンタカー利用者が少ない可能性がある。

(1) ヒアリング調査

レンタカー利用者の訪日回数を図2に示す。訪日回数は5~30回が多く、レンタカーを利用する人はリピーターが多い。

レンタカーの利用回数を図3に示す。レンタカーの利用回数については、今回が初めてという回答が多く、何度かの訪日を経て、レンタカーが利用される場合が多いと考えられる。

レンタカーを利用した理由を図4に示す。荷物が多い、小さな子どもがいる、たくさんの場所に行ける、時刻を気にせず移動できるなどの理由が多く上げられ、レンタカーの運搬能力、柔軟性が評価されている。

道の駅の利用目的を図5に示す。レンタカー利用者の約40%が道の駅を利用しており、利用目的は食事、買い物、トイレが多い。一方で、観光地のことを調べるなどの情報発信機能はあまり利用されていない。

表2 GPSを用いた観光行動調査の実施概要

対象	関西国際空港でレンタカーを借り、関西国際空港に返却予定の訪日外国人観光客
調査方法	訪日外国人観光客のレンタカーにGPS調査機器を搭載
実施場所	関空島内・ホテル日航関西空港の一階レンタカーカウンター前
実施期間	平成30年2月6日(火)~平成30年2月14日(水) 平成30年2月22日(木)~平成30年3月10日(土)

表3 調査件数(有効サンプル数)

国・地域	香港・マカオ	台湾	韓国	中国	その他	合計
ヒアリング調査	285	51	33	21	27	417
GPSを用いた観光行動調査	121	53	18	6	17	215

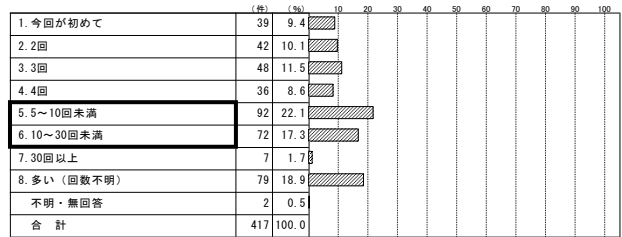


図2 訪日回数

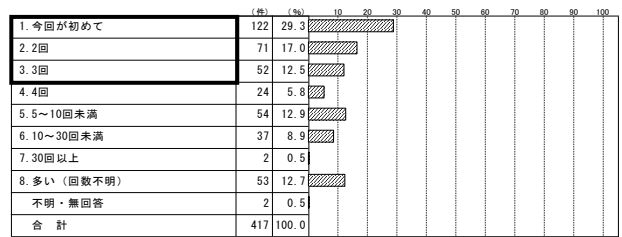


図3 日本でのレンタカー利用回数

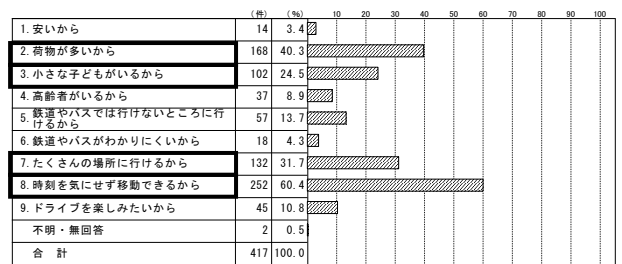


図4 レンタカーを利用した理由(複数回答)

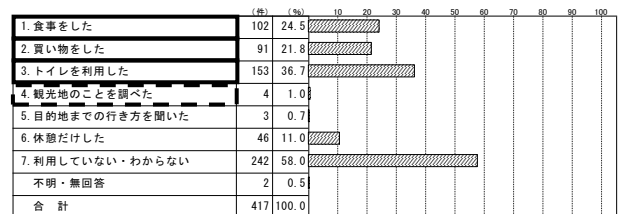


図5 道の駅の利用目的

レンタカー利用の感想と課題を図6に示す。レンタカー利用の満足度はどの項目も高く、道に迷う、渋滞、定時性に関する課題がやや多い程度で、特に指摘の多い課題はない。

一方、日本でレンタカーを利用する上で望むことを図7に示す。改善が望まれることとしては、駐車場や高速道路の利用料金を安くすること、外国語の道路案内標識を設置することへの指摘が多い。

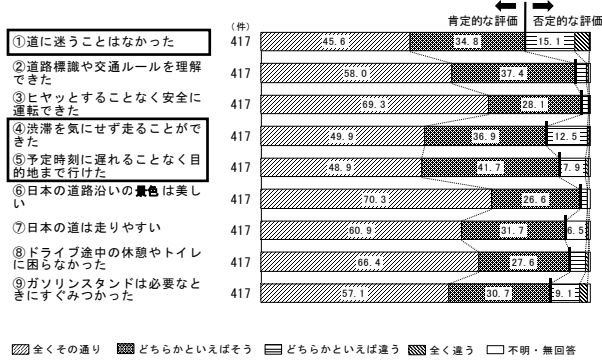


図6 レンタカー利用の感想と課題



図7 レンタカー利用で望むこと(最大3つ)

(2) GPSを用いた観光行動調査

a) 旅行日数

レンタカーの利用日数を図8に示す。平均利用日数は5.7日で、4~7日の利用が多い。

b) 周遊パターン

旅行形態について分析を行った結果、いくつかの周遊パターンがみられた。各周遊パターンの該当数を表4に示し、周遊パターンの代表的な例を図10~図15に示す。

訪問場所からみると、近畿・都市部に限られる場合(42%)、紀南・北近畿など近畿地方を広く周遊する場合(32%)、四国地方・中国地方・中部地方・北陸地方など近畿地方以外の観光地をより広域的に周遊する場合(26%)がある。

一方、宿泊場所からみると、1つの都市に宿泊し周辺観光地を巡る場合と、宿泊地を変えながら周遊する場合がある。

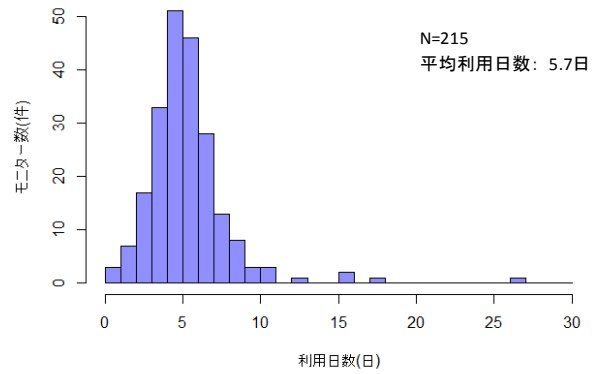


図8 レンタカーの利用日数

表4 訪日外国人レンタカー観光の周遊パターン

訪問場所(図9参照)	周遊パターン	該当数		概要
		サンプル数	割合(%)	
近畿・都市部のみ訪問	1箇所	53	24.7	京都市・大阪市・神戸市の他、奈良市、大津市、和歌山市等を訪問するパターン
	複数	38	17.7	
	(小計)	(91)	(42.3)	
近畿・地方部も訪問	1箇所	14	6.5	姫路市、紀南(田辺市、白浜町、那智勝浦町等)、北近畿(豊岡市、敦賀市、宮津市等)等を訪問するパターン ※あわせて近畿・都市部を訪問する場合も含む
	複数	54	25.1	
	(小計)	(68)	(31.6)	
近畿外も訪問	1箇所	6	2.8	中部(伊勢市、白川村、高山市等)、北陸(金沢市等)、中国(鳥取市、倉敷市等)、四国(高松市、高知市等)等を訪問するパターン ※あわせて近畿を訪問する場合も含む
	複数	50	23.3	
	(小計)	(56)	(26.0)	
合計		215	100.0	

※訪問場所: 1時間以上100m以上動いていない場合を訪問場所とした。

※宿泊場所: 午前3時時点の訪問場所を宿泊場所とした。旅行期間中の宿泊場所が全て同一の市町村内である場合を「1箇所」、複数の市町村の場合を「複数」とした。

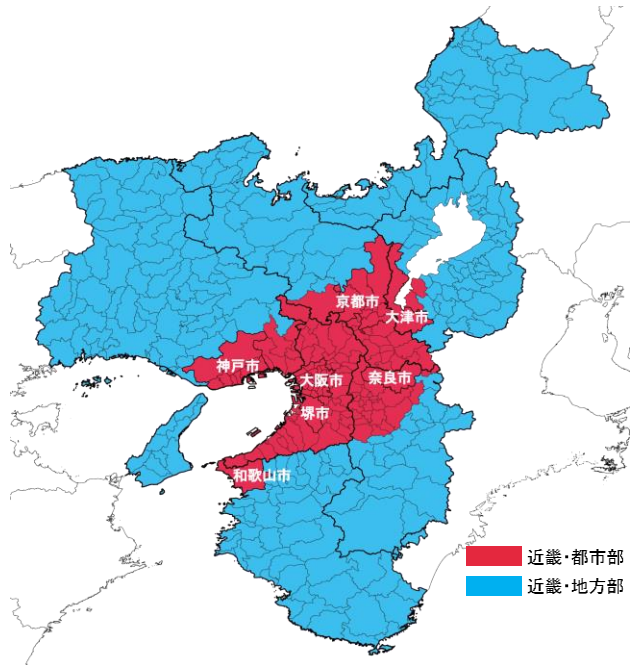


図9 (参考) 集計に利用した訪問場所の地域区分

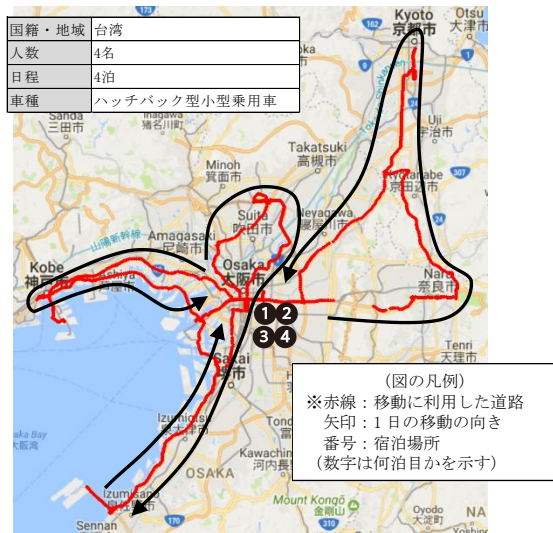


図10 (例1) 近畿・都市部のみ訪問 宿泊地が1箇所

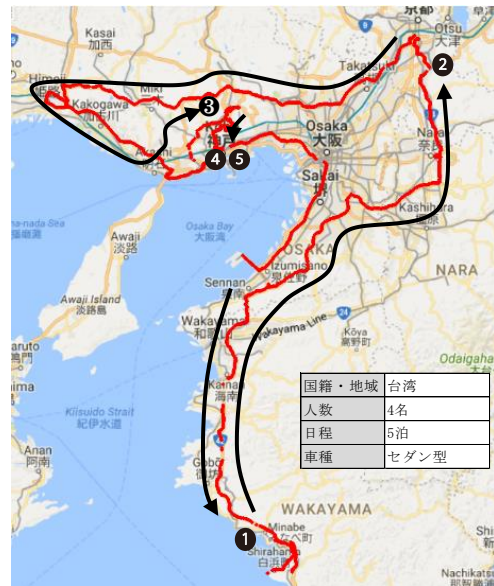


図13 (例4) 近畿・地方部も訪問 宿泊地が複数



図11 (例2) 近畿・都市部のみ訪問 宿泊地が複数



図14 (例5) 近畿外も訪問 宿泊地が1箇所



図12 (例3) 近畿・地方部も訪問 宿泊地が1箇所



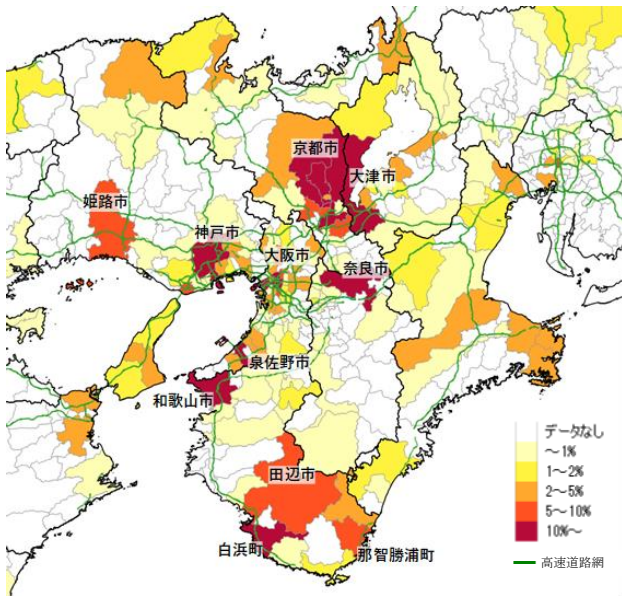
図15 (例6) 近畿外も訪問 宿泊地が複数

一般部門(活力):No.19

また、レンタカー利用による市町村別の訪問率（訪問モニター数 / モニター数）を図16, 図17に示す。訪問率が10%を超える市町村は、大阪市（76%）、京都市（57%）、神戸市（42%）、奈良市（29%）、白浜町（20%）、和歌山市（17%）、大津市（14%）である。その他、紀伊半島、北近畿、四国、中部、北陸など訪問地は広域に広がる。

c) 利用道路

一回の旅行当りの総移動距離を図18に、1日当りの移動距離を図19に示す。旅行期間中の総移動距離は200～600kmに上るものが多く、1日当りの移動距離の平均は95km/日に上る。



※訪問場所：1時間以上100m以上動いていない場合を訪問場所とした。
 ※高速道路網：「高速道路ナンバリング」の対象となっている路線を表示。

図16 市区町村別訪問率（近畿）

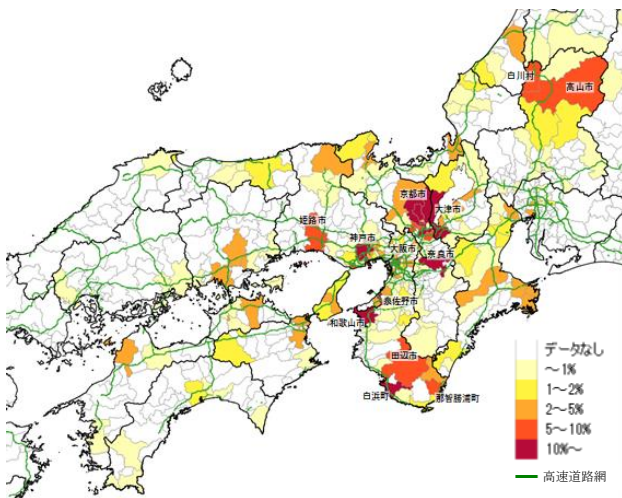


図17 市区町村別訪問率（広域）

そこで、道路種別別の走行台キロを図20に示す。利用された道路の約半数（走行台キロベース）が高速道路（高速自動車国道・都市高速道路）であり、一般道路でも国道の利用が多く、主に主要幹線道路が利用されている。

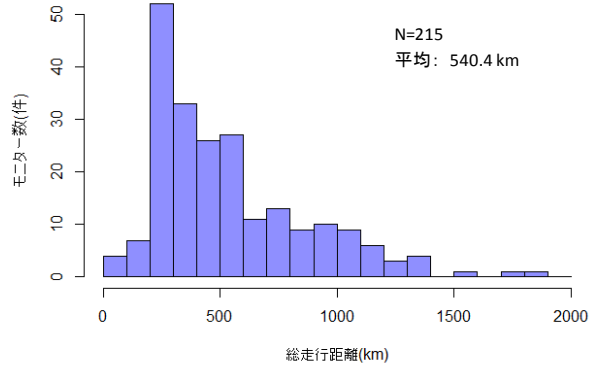


図18 一回の旅行当りの総移動距離

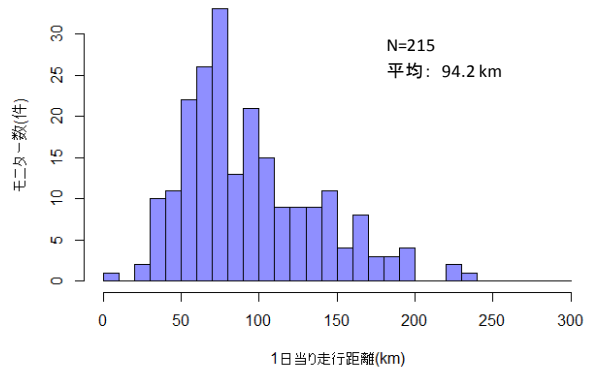


図19 1日当りの移動距離

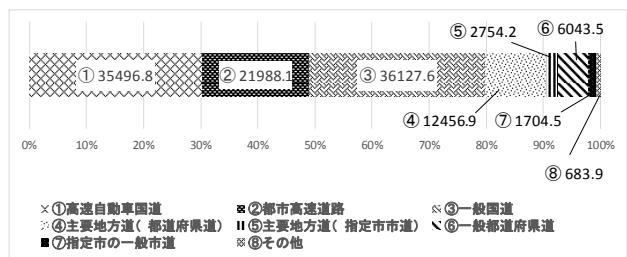


図20 道路種別別の走行台キロ（単位：台キロ）

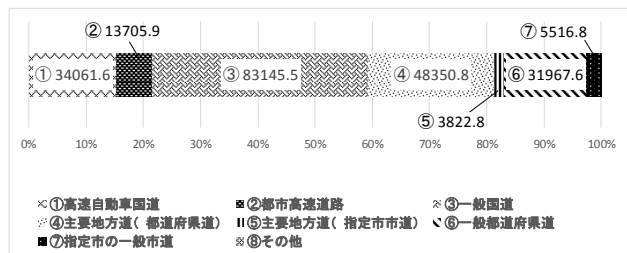


図21 (参考) 近畿地方における道路種別別走行台キロ（単位：千台キロ）³⁾

各方面で利用の多い道路を表5に示す。

表5 利用の多い道路 (括弧内の数字は道路利用率を示す)

行き先	利用の多い道路
京都・大阪間	第二京阪道路 (34%), 名神高速道路 (21%)
大阪・神戸間	阪神高速3号神戸線 (34%), 5号湾岸線 (20%)
大阪・奈良間	第二阪奈道路 (30%)
京都・奈良間	京奈和自動車道 (14%)
紀南方面	阪和自動車道 (33%)・紀勢自動車道 (7%)
北近畿方面	舞鶴若狭自動車道 (5%), 綾部宮津道路 (5%)

(3) 受入環境整備に関する考察

レンタカーを利用する外国人は、レンタカーの運搬能力や柔軟性から今後も増加すると見込まれる。また、訪日経験の増加、パッケージ旅行から個人旅行へ移行が進むにつれ、訪日外国人旅行者によるレンタカーの利用率は高まるものと考えられる。

本調査結果によりレンタカーを利用して、都市部のみを集中的に観光している訪日外国人旅行者が比較的多い一方、関西国際空港から紀伊半島、北近畿、北陸や中国、四国、中部地方など、広域的に周遊する例も確認できた。

レンタカーを利用する外国人旅行者の約40%が道の駅を利用しているにも関わらず、利用目的はトイレ、食事、買い物等が多く、観光地のことを調べるなど情報発信機能はあまり利用されていないことが分かった。このことから、道の駅において、外国語による案内の充実や外国語対応可能なスタッフの配置が望まれる。

また、訪日外国人の事故件数が増加している中、ヒアリング調査から、事故に繋がる要因にもなる道路が走りにくい、道に迷った、渋滞が多い等の声もあがっている。このことから、レンタカー申込時のパンフレット配布等による交通ルールの周知をはじめとした安全なドライブの啓発やラジオなどでの多言語による渋滞情報配信など、多角的な交通安全対策が必要である。

さらに、ヒアリング調査によると外国語の道路案内標識の設置、駐車場・高速道路の利用料金低減等を望む声

が比較的多いことから、高速道路乗り放題パスの販売促進等を実施し、レンタカー利用の利便性・快適性を高める必要がある。

現在、訪日外国人旅行者の特定地域への集中が課題となっている一方、少子高齢化が進み、地方における収入をインバウンド消費により高める必要がある中で、先述した対策等を実施し、道路ネットワークをより一層強化し、中国、四国、中部地方との地域間連携を行うことで、訪日外国人旅行者の広域的な周遊促進が図られると考える。

4. おわりに

本研究では、関西国際空港でレンタカーを借りた訪日外国人旅行者を対象に、ヒアリング調査とGPSを用いた観光行動調査を実施することにより、これまで詳細に把握されていなかった訪日外国人旅行者のレンタカー利用の実態を明らかにすることができた。また、これをもとにレンタカー利用の課題と、それを踏まえた受入環境整備について考察を行った。

今回は冬から春にかけて調査を実施したが、今後は他の季節でも調査し、利用実態を把握する必要がある。また、これらの調査結果を踏まえて受入環境整備を進めていくことが必要である。

謝辞: 本研究にご協力いただいた株式会社トヨタレンタリース新大阪、ニッポンレンタカー関西株式会社、オリックス自動車株式会社、タイムズモビリティネットワーク株式会社、関西エアポート株式会社の皆様に感謝申し上げます。

参考文献

- 1) 一般社団法人全国レンタカー協会：レンタカー事業の現状について
- 2) 沖縄総合事務局：レンタカープローブによる観光交通の流動について
- 3) 平成27年度全国道路・街路交通情勢調査 一般交通量調査